

硫黄山噴火に伴う鹿児島県の取組について

The response of Kagoshima prefecture to the eruption of Mount Iou.

山下 義美

Yoshimi Yamashita

1. はじめに

2018年4月19日硫黄山が約250年ぶりの噴火に伴い火山性の熱泥水が長江川、川内川に流入し水質が悪化した。川内川を農業用水の水源として利用する鹿児島県湧水町226ha、及び伊佐市545ha、計771haにおいて、5月から取水を停止し、水稻作付の休止を決定した。

今回、硫黄山噴火対策として本県が2018年度から2019年度に実施した対策工事等について報告する。



2. 代替水源確保対策について

(1) 利用可能な代替水源調査を実施。短期的対策として湧水町栗野土地改良区が簡易的な整備を行い、2019年までに85ha(湧水町作付休止面積の37.6%)の水源を確保した。

(2) 中長期的対策として検討された代替水源を利用するためには、揚水機場や用水路の新設が必要となり、事業費やランニングコスト等が高額となることが予想された。また、川内川の水質が改善し環境基準値内で安定してきたことなどから、現実的な対策として川内川からの取水再開の地元意向が強くなった。

3. 取水再開対策について

(1) 伊佐市は、2018年12月伊佐市農業再生協議会において2019年作付より、川内川からの取水再開を決定した。これを受けて、以下の対策を実施した。

① 伊佐市鷓泊橋に水質観測システムを設置し、川内川の水質を観測し異常値を観測した場合、これと連動して川北第1取水門及び荒瀬取水門の閉門を自動化するための施設を整備し、2019年6月に完成、取水可能となった。

② 水田の乾田化汎用化を目的に、2019年度に暗渠排水工事を15.9ha実施。

(2) 湧水町は、2019年7月湧水町農業再生協議会において2020年作付より、川内川からの取水再開を決定した。これを受けて、以下の対策を実施した。

① 湧水町鶴丸橋に水質観測システムを設置するとともに、中津川揚水機場・川西揚水機場・二渡揚水機場の取水ポンプ自動停止、北方用水路取水門の閉門自動化、及び取水口土砂流入防止対策を実施し、2020年3月完成した。

なお、水質観測システムは、宮崎県えびの市でも同様のシステムを整備しており、情報共有を図っている。

② 水田の乾田化汎用化を目的に、2019年度に暗渠排水工事を30ha実施。

(3) 今後も引き続き受益者が安心して農業に取り組めるよう必要な支援を行いたい。

鹿児島県始良・伊佐地域振興局

Aira-Isa Regional Promotion Bureau Kagoshima-prefecture

キーワード 硫黄山噴火, 河川水質, 水質観測システム, 自動取水停止装置(ゲート・ポンプ)

